

今、世界を魅了する日本のエンタテイメント（以下エンタメ）とは何だろうか？

恐らくアニメ、コスプレ、直近ではユーチューブで話題を呼んだピコ太郎等比較的新しいエンタメが頭に浮かぶのではないだろうか。

ところで、日本という国号が使われるようになったのは7世紀後半だが、新しいエンタメだけではなく、独自性に富んだ千年以上の歴史をほこる我が国のエンタメの力を確信する或る出来事があった。

10月23日延べ2万人を動員したオランダのアムステルフェーンで行われたジャパンフェスティバル。そこで「HANABI」として披露したパフォーマンスは、津軽三味線、尺八、という日本の伝統芸能音楽をDJがダンスミュージックに融合させ音楽空間を演出した。加えて墨絵画家「茂本ヒデキチ」による墨絵ライブペイントをコラボレーション。ジャパンフェスティバルを主催した在蘭日本大使館猪俣大使は、「これまで多くの日本の芸能を披露してきたがこんなに盛り上がったのは初めて。モダンに見せる事で多くの人が盛り上がった」との感想を述べられた。

実はこの「モダンなパフォーマンス」こそ世界に通用する為の必須条件なのだ。

## 『日本エンタテイメントの可能性(1)』

文 岸本公平 text by Kohei Kishimoto

その役割を果たしたのが「HANABI」の世界観を創出する中心的な役割の「DJ」だ。音楽を駆使して空間演出するDJは言葉や宗教などの壁で伝わり辛い日本エンタメをその国の音楽の特性を分析し、観客の心に直感的に刺さり易い音楽演出を見出す事で日本エンタメとその国に根付いたエンタメを見事に融合させた。その結果、「HANABI」を観た多くの人が今最も慣れ親しみ熱くなるエンタメとして心に刺さったのである。

クールジャパンが騒がれ多くの日本エンタメが世界に発信される中、その多くが極東アジアの異質なエンタメとして見られ、認識こそされるものの生活の中へと浸透していく事は難しいと言われている。中でも伝統芸能の域に達したエンタメにその傾向が強い様だ。

300年後の日本人の人口は1000万人を切るとも言われている。千年以上の歴史を持つ日本エンタメは、その心を共有する日本人自体が減少すれば、守るだけでは自ずと風前の灯となってしまふ。

そんな中日本のエンタメは「HANABI」のように、世界基準のエンタメに日本エンタメを融合させた文化として世界中に根付かせる事で、次の千年を魅了するエンタメとして力を発揮できるのではないだろうか。

### Profile

株式会社NEWTRAL代表取締役  
HANABIプロジェクトプロデューサー  
福岡県出身。日本大学中退後、テレビ番組制作会社入社。その後ディレクター、プロデューサーなどを経て、30歳の時株式会社NEWTRALを設立。メディアで学んだ企画やプロデュースの視点を生かし、企業のコンサルティングはもとより、地方創生事業やクールジャパン事業に取り組む。

